

別冊「社会開発特集」の刊行に際して

1950年代になるや、世界各国において、社会開発 (Social Development) の要請が強く訴えられてきました。とくに国際連合においても、この気運に応じて数多くの努力が重ねられ、1959年には、国連総会の決議によって、1960年代を「開発の10年」とし、努力目標を明らかにしています。わが国においても、経済開発の進展の上に立って、その反省として、近年、社会開発の必要性がいられています。

本研究所は昭和40年1月発足以来、社会保障の基礎的総合的研究をすすめてきましたが、その一環として、社会開発における社会保障の役割・課題について、格別の関心をはらってきています。このため昭和40年11月および翌41年10月と2回にわたり、社会開発の理論と内容を明らかにするために、「社会保障研究所基礎講座——社会開発セミナー——」を実施してきました。

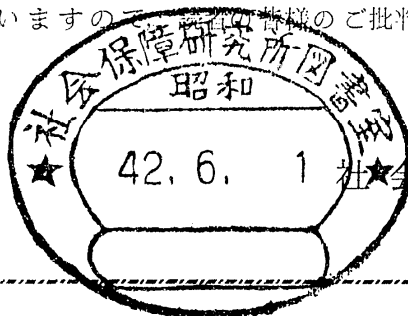
本特集は、この第2回社会開発セミナーの講義をもとに、講師の諸先生に加筆訂正していただいたものをまとめたもので、諸先生方のご労苦にたいして、深い感謝の意を表したいと存じます。

なお本特集に収録した論文のほかに、第2回基礎講座に、小山進次郎、富永健一両先生の講義も行われています。このうち小山進次郎先生の「わが国医療保障の現状と課題」については、本研究所発行の季刊社会保障研究第2巻第3号に掲載しているの、割愛させていただきました。また富永健一先生はこの講義のあと外遊され、加筆訂正の機を得ず、割愛しましたが、同先生の論旨については、「社会変動の理論——経済社会学的研究——」(岩波書店刊)などの労作を参照していただければ幸甚と思います。

なお両先生の講義の代りに、第1回の基礎講座から、福武直先生の講義内容を掲載させていただきました。

社会開発の意義は、今後さらに強調されることはあっても、決して失われることはないと思います。今後とも本研究所では、社会保障の基礎的総合的研究とあわせて、社会開発の理論的実証的研究を重ねていかなければならないと考えています。本特集の刊行を機に、さらに研究調査を本格的にすすめていきたいと思っておりますので、諸先生のご批判とご指導を切にお願いいたします。

昭和42年5月



社会保障研究所